

法人訪問第 16 回
(公財) 根津美術館と内閣府公益認定等委員会との意見交換
議事要旨

1. 日 時：令和 2 年 1 月 24 日（金）10:00～12:00

2. 場 所：(公財) 根津美術館講堂

3. 出席者：

(公財) 根津美術館

根津 公一	(公財) 根津美術館	理事長
松原 茂	(公財) 根津美術館	理事・学芸部長
柳瀬 茂	(公財) 根津美術館	理事・管理部長
所 純子	(公財) 根津美術館	学芸部次長（広報担当）
宇田川 宗光	(公財) 根津美術館	顧問

(内閣府公益認定等委員会)

佐久間総一郎委員長、小森幹夫委員長代理

安藤まこと委員、今泉邦子委員、黒田かをり委員、小林敬子委員、佐藤彰紘委員

米澤俊介事務局長、北原久事務局次長、岡田幸兵審査監督官

4. 議 事：

(1) (公財) 根津美術館の活動

(2) 意見交換

5. 議事概要：

(公財) 根津美術館（以下、「美術館」という。）の根津理事長、松原理事・学芸部長、所学芸部次長から根津美術館の活動内容・施設について御紹介いただき、意見交換を行った。

●：(公財) 根津美術館、○：内閣府公益認定等委員会

(1) (公財) 根津美術館の沿革、施設等

● 初代根津嘉一郎氏が美術で国に貢献する「美術報国」の志で蒐集した日本・東洋の美術品をもとに、嘉一郎氏が没した 1940 年にその遺志を継いで財団法人を設立、1941 年に根津美術館を開館した。1945 年には空襲により展示室や庭園などは焼失したが、1946 年には美術館を再開、1954 年に新しい展示棟を建設、1964 年に展示棟の増築を行った。現館長根津公一氏のもと、2006 年から大規模な建替えを行い、2009 年には建築家隈研吾氏の設計による現在の本館が完成した。

2016 年に開館 75 周年を迎えた。

● 維持管理、啓蒙活動、調査・研究を柱として、特に当代においては美術品をいかに後世に伝えるかという観点から維持管理に力を入れている。

2006年から行った大規模な建替えについては、以前の収蔵庫は土蔵で環境が悪く、これを作り直すことが眼目だった。その資金調達は、外国の美術館の事例を調べたところ、理事会の決定により収蔵品を売り資金を得る方法が主流であることを参考にし、理事会での議論を重ねた結果、所有していた工芸品を売却することに決まった。清王朝時代に作られた宝飾時計を複数台所有しており、それまで他の美術品とはジャンルが異なり展示する機会がなかったことから選択した。売却のタイミングにも恵まれ十分な資金を調達することができ、株式・土地といった基本財産を守ることができた。

- 館内は6つの展示室があり、通期展示のほか年7回の展覧会を開催している。

展示室のLED照明は展示物によって演色度（2,650～5,000ケルビン）を調整している。展示ケースは展示する際に展示物が傷つかないように、また、作品の形状、大小に合わせた展示空間を確保するため、一部は壁が自動で動くようになっている。また、展示ケースのガラスは透明度の高いガラスを使用する、独立ケースの照明の配線にはフィルム状のコードを使用する等により、鑑賞しやすくなっている。また、どの展示ケースも鍵穴が外見からはわからないようになっている。展示室の椅子は快適に過ごせるよう、ノーマン・フォスターの作品や旧収蔵庫の梁を利用したものなどを使用している。
- 庭園は青山の自然を生かした造りであり、特に4～5月に見頃となる燕子花の群生が目玉である。庭園内に4つの茶室を備えそれぞれ茶会や催事を開催している。

（2）意見交換

- 収入について伺いたい。また、新規にコレクションを購入する原資になり得るのか。
- 入館料と収益事業のビル経営、所有する株式の配当金があり、減価償却により少し赤字となる状況である。企業が設立した美術館では公益法人となった後も企業から寄附を受けている法人もあるが、当法人では東武グループからの寄附は受けず、独立独歩することができている。

先代までは購入もよく行っていたが、現在そこまでは貯まらないので余裕ができた時は検討するという方針である。
- 昨年はノートルダム大聖堂や首里城といった文化財の火災が発生したが、防火・防災対策はどうされているか。
- ハロンガスによる消火設備を入れている。保険はかけず収蔵庫に力を入れており、全国的にも珍しい方法だが、旧展示棟の中に箱型の倉庫を作り、中の倉庫を免震構造としている。東日本大震災の発生時には東京は震度4の揺れがあったが、震度1、2程度の揺れで済み、作業していた職員は気がつかなかったほどである。
- 美術館のトレンドとしてデジタルアーカイブはどうお考えか。
- 主な収蔵品はホームページでも写真を閲覧できるようにしているが、約7,400件全てを掲載することはできない。将来的には取り組みは進むと考えるが、やはり画像でわかることと、現物を見て感動してもらうことは相反する点もある。
- 美術品を国に寄附するのではなく、民間による公益の増進として自ら美術館を開くことを選択された点について伺いたい。近年これほどのレベルではなくとも、美術品をどう引き継いでいくかはお悩みの方も多い。
- 当法人の場合は、初代がアメリカへ外遊した際に私人が美術等により国に貢献するとい

う考え方に感銘を受け、国のために美術館や学校教育を行いたいと考えたことが始まりである。美術品は、現在は我々がお預かりしできる限り維持管理を行っているが、今は公益法人であるので最終的には国にも関わっていただけることだと考えている。公益法人をやられている方はもしもの時は国と一緒にやって取り組むという覚悟でいると思う。

- 調査・研究の成果について伺いたい。
- 館内では講演会を開催したり、展覧会を通して得た知識を集積し終了後に公表したりしている。外部との協力では、当法人の学芸員が委員会や調査団に参加することや、当館への調査に外部、特に海外の美術館からいらっしゃることもある。
- 海外の展覧会への貸し出しは行っておられるか。また、最近は海外がルーツの品について、当時は正当に持ち込んでいても、その権利について何か言う人がいるようなこともあるが、そういった御苦労はあるか。
- 貸し出しは行っているが、国内へ貸し出す場合よりも、安全に運搬することができるか、当該展覧会に必要であるか等を慎重に精査して行っている。海外がルーツの収蔵品は当時善意の第三者として購入したものであり、返せと言われることはないが、貸してほしいとかデータを採らせてほしいとかと言われることはある。
- 収蔵品は年代が幅広く種類も豊富であり、その維持管理は困難な作業と思うが、それぞれどのようなご苦労があるか。
- 焼き物は照明に強い、紙は湿気に弱い等それぞれ最適な温湿度があるが、収蔵庫は一つしかないため、どの品にも影響のない範囲で管理している。近年は夏の異常な高温など特に空調に注意する必要がある。また、庭園があるために虫が多く、その防御には特に力を入れている。また、お祝いの花を館内に決して持ち込まないよう注意を払っている。
- 防犯対策について伺いたい。
- 閉館時の施錠のほか、警備員の配置、赤外線センサーなどを設置している。
- 事業をやっていく上での新たな顧客の創造、若い世代の取り込みやリピーターの獲得などについて腐心されている方策はあるか。
- 方針として、あくまで東洋古美術の展示を基本としている。学芸員による展覧会を年に7回行っており、これは他の美術館に比べると多く充実したものになっている。
他の美術館ではメディアとのタイアップにより資金を獲得して大規模な企画を行い、招待券を大量に配ることがあるが、当法人は小さい美術館であり、キャパシティを超える大量の入館者を迎えて対応しきれなくなる恐れがあるため、行わないことにしている。
- 現在の年間入場者数は28万人まで増加しこれ以上増えると受け入れが難しいため、例えばQRコードチケットによる日時指定入場制を用いているブリヂストン美術館(現アーティゾン美術館)等を参考とし、今後はテロ対策の観点からもスマートフォンによる個人認証等を取り入れて、入館者数を制御していくことなども検討していく必要があると考えている。
- 庭園では現代的な展示にも取り組んでおり、庭園の茶室にて磁器の作家を招いての個展の開催や「百椿図」の展示に合わせた椿を用いた生け花など、展示に合わせた催事を行っている。庭園や建築自体を目的とした来館者も多い。
- 他のモデルとなるような点が多々あると感じたが、他の美術館から視察にいらっしゃることはあるか。

- 特に改修の参考の視察にいらっしゃることは多い。
- 美術館は通常入館料だけではやっていけないところが多いが、こちらで寄附収入がほぼなく、自主独立でやっておられる点は鑑になるような経営だと感じた。

以 上

(文責：公益認定等委員会事務局)